

松山アーバンデザインセンターの 設立とその役割

片岡 由香¹・新階 寛恭²・松本 啓治³・羽鳥 剛史⁴・羽藤 英二⁵

¹正会員 愛媛大学 防災情報研究センター 助教 (〒790-8577 松山市文京町 3 番)

E-mail: kataoka.yuka.kq@ehime-u.ac.jp

²非会員 国土技術政策総合研究所 都市研究部 都市施設研究室長 (〒305-0802 つくば市立原 1 番地)

E-mail: shingai-h86ax@nilim.go.jp

³非会員 愛媛大学 防災情報研究センター 教授 (〒790-8577 松山市文京町 3 番)

E-mail: matsumoto.keiji.jf@ehime-u.ac.jp

⁴正会員 愛媛大学大学院 理工学研究科生産環境工学専攻 准教授 (〒790-8577 松山市文京町 3 番)

E-mail: hatori@cee.ehime-u.ac.jp

⁵正会員 東京大学 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授 (〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1)

E-mail: hato@bin.t.u-tokyo.ac.jp

官民連携による地域に根差した公共空間の質を高める試みは全国で数多く見られるようになった。そのような中、近年、「学」が主体となって関係主体と連携しながらこのような取組みを進める組織として『アーバンデザインセンター』の設立が各地で確認される。

愛媛県松山市においても2014年4月に『松山アーバンデザインセンター』が組織され、11月には活動拠点となる屋内・屋外の公共広場的空間を開設し、行政、市内の大学、民間団体とネットワークを築きつつ、公共空間の質の向上を目指した実践を進めている。本報告では、先行する他のアーバンデザインセンターの状況（報告）とも比較しつつ、同センターの設立経緯と活動経過、その効果について明らかにし、その特徴と期待される役割について示唆を得ることを目的とする。

Key Words : *urban design, urban design center, spatial planning*

1. はじめに

公民の協働による公共空間の質の向上を目指す試みが全国で進められており、複雑化、多様化するまちづくりの課題について、行政と民間が役割分担をしながら協働で地域の課題の解決に取り組むことが求められている。そのような中、公民の連携を推進するために、専門的知識を活かして各関係主体間の調整を図ることが期待され、「学」が中心となってこのような取組みを進める組織として、「アーバンデザインセンター」の設置が見られるようになった。アーバンデザインセンターについては、既往報告¹⁾²⁾の通り、故・北沢猛氏による構想のもと平成18年に「柏の葉アーバンデザインセンター」が開設され、これを皮切りに各地で設置が進んでいる。

愛媛県松山市では、全国的な課題と同様に、人口減少・超高齢化、モータリゼーション等に伴う中心市街地の空洞化や賑わいの衰退、歴史や文化を活かした持続可能都市を目指すべく、平成26年4月に「松山アーバン

デザインセンター」を発足し、同年11月に活動拠点をオープンさせた。本報告では、松山アーバンデザインセンターの設立経緯と体制、組織として発足後初年度の取組み内容について整理し、その役割について明らかにすることを目的とする。

2. 松山アーバンデザインセンターの概要

(1) 松山アーバンデザインセンターの設立経緯

松山市では、市内の公共空間が抱える課題に取り組むため、平成25年4月に都市デザイン課を設置し、体制を整えていた(表-1)。その後、アーバンデザインセンターの先進事例の視察などから知見を得て、翌年2月には、行政、大学、民間団体が連携した組織として「松山市都市再生協議会」(以降、協議会)を立ち上げた。同協議会のメンバーには、松山市内の4大学、伊予鉄道、松山商工会議所、松山市が委員参画している。また、

協議会設立と同時に、専門家が常駐する執行機関として「松山アーバンデザインセンター」（以下、UDCM）を発足させた。同協議会メンバーである愛媛大学では、防災情報研究センター内に、UDCMの運営を遂行するための寄付講座を設置し、学内に「アーバンデザイン研究部門」が新設され、同部門の担当教員3名が松山アーバンデザインセンターのコアメンバーとして、プロジェクトの実務及び研究を進めている（図-1）。

表-1 UDCM開設までのプロセス

2013.4	松山市に都市デザイン課設置
2013.12	第1回松山都市デザインWSの実施
2013.12	松山市都市デザインシンポジウムの実施
2014.2	松山市都市再生協議会及びUDCM発足
2014.2	第2回松山都市デザインWSの実施
2014.4	UDCMの活動開始
2014.5	アーバンデザイン講演会の開催
2014.7	第1回みんなのひろばWSの実施
2014.8	第2回みんなのひろばWSの実施
2014.9	第3回みんなのひろばWSの実施
2014.11	UDCM及びみんなのひろば開設、オープニングフォーラムの実施

(2) 運営体制

UDCMに係る運営や活動内容については、協議会において報告及び承認されている。また、人件費、研究費、運営費などの運営については、平成26～28年度までの3年間の予定で松山市が負担している。加えて、人材については、UDCMのコアメンバーである愛媛大学の教員、受付事務スタッフおよび学生スタッフがUDCMに常駐している。なお、実務面においてはコンサルタント会社が協力メンバーとなっている。

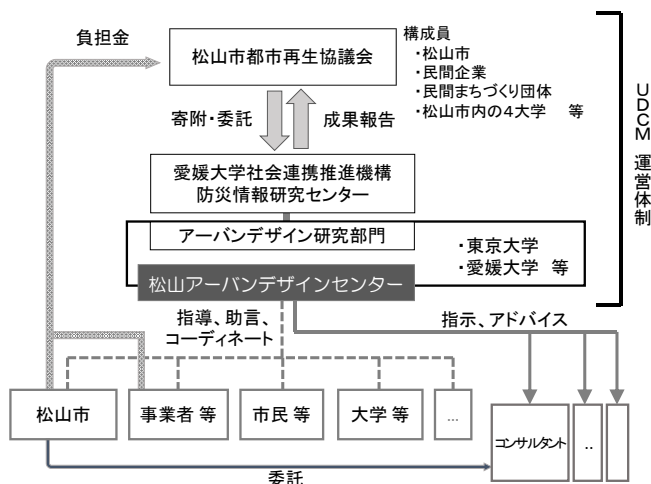


図-1 UDCMと関連組織との関係図

3. UDCM活動拠点の概要

(1) 活動拠点の立地特性

UDCMの活動拠点は、愛媛県松山市（人口約52万人）の中心部に位置し、商店街に近接する区画道路に面した民間の商業ビルの1階及び2階を交流スペースとして改装している。特に1階は、来街者の休憩、まちづくりに関わる会議やワークショップ、展示などのイベント、講座などに使用できる多目的スペース（面積220㎡）として整備した（写真-2）。その対面には、コインパーキングとして利用されていた民間所有地を改修し、ポケットパーク「みんなのひろば」（以下、広場）（写真-1）をUDCMの活動拠点と同時に開設した。多目的スペース及び広場については、申請・審査を受ければ、無料で占有利用できるシステムとなっている。



写真-1 UDCM前に開設されたみんなのひろば



写真-2 UDCM1階の多目的スペース

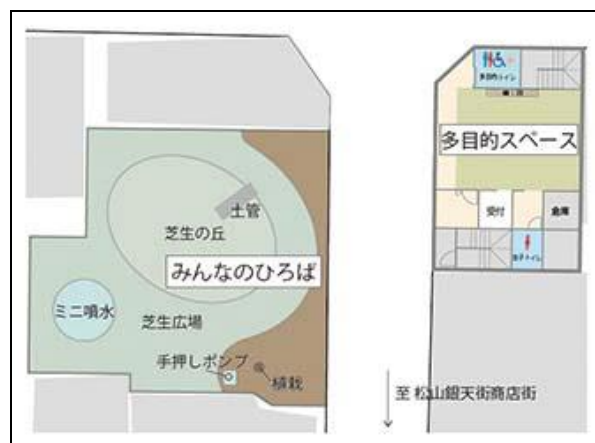


図-2 みんなのひろばと多目的スペースの位置関係

このように、不特定多数の来街者が公園として利用する空間（みんなのひろば）と、まちづくりに関する講演会やWS、会議、展示などの使い方が期待される空間

(多目的スペース)が道路を挟んで向かいに位置している。どちらかで活動が実施されている場合には、活動の様子が目視できるような立地となっている(図-2)。

(2) 活動拠点の開設経緯と運営

これらの活動拠点やポケットパークについては、松山市の中心市街地賑わい再生社会実験として、「松山都市デザインワークショップ(以下、WS)」や「みんなのひろばWS」が実施され、市民の意見を反映させながら整備されたものである。前者のWSでは、場所の選定などについて検討を行った。後者のWSでは、具体的に広場や屋内のスペース(現在の多目的スペース)でどのような事をしてみたいか、空間を活用したイベントアイデアや、ルールについて意見を出し合った。また、広場にあったら良いと思うものについて議論し、土管や手押しポンプ、水場(噴水)などが採用され実現に至った。

UDCMのスタッフは、図-2の多目的スペースの2階に常駐し、現時点では、松山市とともに1階および広場の管理者となっている。また、運営に関しては、地元自治会などの住民や松山市内の4つの大学、行政、UDCM、地元民間団体より構成される「松山市中心市街地賑わい再生専門部会」を設け、今後の拠点の運営方針や活動展開などについて協議を行っている。加えて、毎月定期的に地元住民やUDCM、上記WSの参加者、松山市によって構成される運営会議を開き、利用運営に関して審議している。また、これら活動拠点の空間利用に係る経費(家賃など)については行政、光熱費については愛媛大学から支出している。

(3) 活動拠点の利用実態

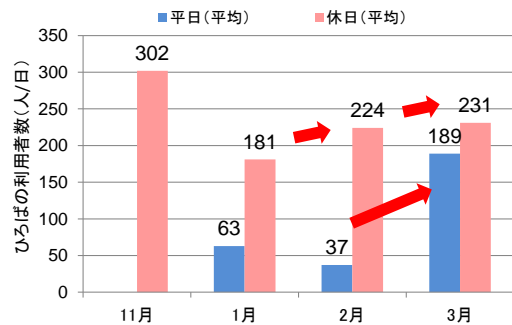


図-3 月別の広場利用者の推移(平日・休日の平均)

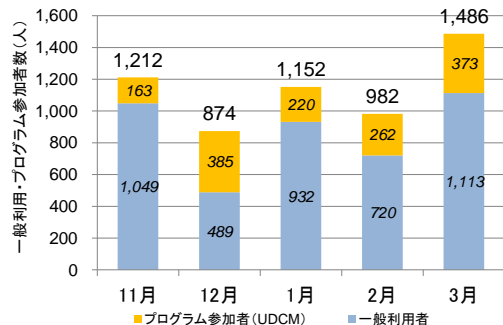


図-4 月別の総利用者数(平日・休日の合計)

活動拠点の利用実態については、広場については、屋外という性格上、季節・天候が利用者数に影響していると考えられる。特に休日に関しては、利用者数の増加が確認され(図-3)、小学生以下の子供の利用率が高い。

また、屋内の多目的スペースについては、UDCM主催のプログラム参加者以外の一般利用については、月によって利用者数の変動が見られ、広場での行事開催時には、向かいにある多目的スペースを利用する傾向にある。

また、開設以来に定期的に実施しているアンケート調査の結果によると、リピーターの数が増加傾向にあることが明らかになった。

これらのデータは、一般的利用(休憩、トイレ等の立ち寄り、飲食など)によるものであるが、多目的スペースについては、当初の想定通り、一般的利用以外に、まちづくりに関する会議やWS、打合せ、講座の利用が多く、経過とともにこれらの数も増加傾向にある。

4. UDCMの活動分類(初年度)

UDCMのメンバーは、設立当時より、松山市内の公共空間の質の向上に関する取組みについて専門の見地から参画することが求められていたため、初年度より、松山市内の空間計画や景観整備などの空間デザインマネジメント、まちづくりの担い手育成などのプロジェクトに対し、行政との協働により遂行している(表-2)。また、拠点に常駐しているため、行政や市民からのまちづくりに関する相談を受け付けられる体制にしている。

表-2 初年度2月時点の活動(プロジェクト開始順)

分類	活動テーマ
空間計画	中心市街地賑わい再生社会実験
空間デザインマネジメント	一番町大街道口景観整備
空間デザインマネジメント	道後温泉活性化基本計画策定業務
情報発信	地元メディアを活用した情報発信
空間デザインマネジメント	再開発構想策定支援
人材育成	アーバンデザインスクール
空間デザインマネジメント	花園町通り景観整備

※ここでの空間デザインマネジメントとは、各対象地の空間について、将来像を描きながら関係主体と合意形成を図りつつ、デザイン面のアドバイスや今後の方向付けを行う活動を指す。

(1) 空間デザインマネジメント

初年度の活動の中で、空間デザインマネジメントについては、行政と各フィールドに係る民間団体、コンサルタントの間に入り、景観および空間計画の支援を行った。具体的には、一番町大街道口(大街道商店街の最北部)や花園町通りを対象に、地権者や行政関係者の間に入り、空間デザインや合意形成に関して助言するもの

である。

また、松山市による道後温泉活性化基本計画策定業務を受託し、コンサルタントの協力を得て策定業務を遂行した。本計画は、地元旅館組合や商店街組合、行政等から構成される懇談会や審議会において定期的に計画内容の承認を図った。特に、2014年夏には「U-30 都市計画-都市設計提案競技 風景づくり夏の学校 2014」を実施し、道後温泉地区を対象に、全国の30歳以下の実務家や学生から、将来像や活性化に向けてのアイデア提案を募集した。本競技で入賞したチームは、同計画策定業務に関わり、一部のアイデアを計画に反映させた。加えて、入賞したチームによるアイデア提案は、地元でのプレゼンテーション、WS、展示会などによって市民向けに公表の場を設けた。

(2) 人材育成とネットワーク化

また、人材育成については、「アーバンデザインスクール」というまちづくりの担い手育成講座を、活動拠点開設当初の2014年11月より実施している。本講座は、松山市内に在住する学生だけでなく、一般市民も参加しており、隔週で集まり、松山市内のまちづくりの課題や楽しみ方について各自が発見をし、それらから各自でテーマを導き企画を立案するというものである。運営には、松山市内の4大学（愛媛大学・松山大学・東雲女子大学・聖カタリナ大学）の教員らが関わり、スクールの展開に協力を得ている。

本プログラムは、スクール生が自ら主体となって、企画内容の具現化に結び付けていくというものであるが、そのためにはUDCMや各企画内容に関係する地元関係者、行政と協働しながら活動を展開していくことが必要となる。人材育成という性格だけでなく、本活動を通じて、UDCMのネットワーク化を図ることも目指した取り組みである。

(3) 情報発信

UDCMの活動を展開していく上で、情報発信は不可欠となるが、公式HP、SNSなどのほか、UDCM発行のパンフレットや活動通信、松山市発行の広報紙や新聞を通じて情報発信を行っている。特に、UDCMが行政との連携機関であるが故に、広報紙への掲載がスムーズとなっている。

これらに加え、2015年4月からは、FM愛媛との協働による番組「マチラヂ」の放送を開始している。同番組では、UDCMの説明や、アーバンデザインスクールなどの活動と連携した情報発信を進めている。

5. おわりに

以上、UDCMの設立経緯と、筆者らによる初年度の活動について整理した。以上の活動を概観し、既存のアーバンデザインに関する団体の活動（表-3）と比較すると、

- 1) 空間デザインについて、行政や各対象地の地元関係者との間に入り、専門的立場からの助言や合意形成を図ること、
- 2) 様々なアイデアを集め、実際の計画づくりに反映させ、計画の具現化を見据えた関係者らに承認をもらいながら（理解を得ながら）計画を進めること、
- 3) 次代のまちづくりの担い手を育成しつつ、活動の展開によって、UDCM自体の協力関係先のネットワーク化を図ること、
- 4) 地元関係者や市民に対して勉強会や講演会、展示会を通じてアイデアを伝え、知識や意識の醸成を図ることがアーバンデザインセンターの特徴・役割であると考えられる。

表-3 アーバンデザインに関する団体の例

団体種別	団体例（学会を除く）	アーバンデザインへの役割
専門家組織	(建築系)JIA, 組織設計等	提言, コンペ等の主催
	(都市計画系)JSURP, 都市計画事務所等	提言など
	(土木系) JCCAEAGS, 建設コンサルタント, JCCA等	提言など
地域組織	まちづくりNPO団体, 商店街のマネジメント組織等	提言, 地域との連携による活動の実施
	建築士会（建築士が中心）	提言, コンペ等の主催
	アーバンデザインセンター（公民学の連携組織（形態は地域による））	提言, コンペ等の主催, 人材育成, ネットワーク化, 情報発信, 情報提供, 現地（地域）の空間デザインマネジメント等

今後は、他のUDCとの比較、社会実験としてのUDCMの拠点およびポケットパーク設置の効果検証等を実施し、公民学の連携による空間形成を図るUDCが担うべき役割について研究を深めたい。

参考文献

- 1) 前田英寿, 北沢猛, 丹羽由佳理: 「公民学連携型まちづくり組織の設立と始動-柏の葉アーバンデザインセンターの初年度-」, 日本建築学会技術報告集, 第14巻, 第27号, pp.291-296, 日本建築学会, 2008.
- 2) 前田英寿: 「アーバンデザインセンターに関する経験的考察-柏の葉アーバンデザインセンター-」, 日本建築学会計画系論文集, 第79巻, 第655号, pp.2203-2212, 日本建築学会, 2008.
- 3) アーバンデザインセンター研究会, 「アーバンデザインセンター開かれたまちづくりの場」, 理工図書, 2012